

情報リテラシー科運用報告

ポリテクセンター岡山
(岡山職業能力開発促進センター)

森本 洋*

1. はじめに

平成13年度から18時間のセミナーコースとして開始された情報リテラシー訓練を平成14年度からは本格的な1ヵ月訓練として実施している。この訓練の実施状況の紹介とともに効果的な訓練とするために行ったさまざまな試みとその結果の概要について報告する。

平成14年度における情報リテラシー科は1コース当たり定員は35名で合計18日間(108時間)の訓練を以下の内容で実施している。

- 電源操作, キーボード, マウス, FDの操作。
- OS基本操作
- ワープロの操作
- エクセルの操作
- インターネット, 電子メールの操作。
- 応用課題等。

講師は主任1名補佐員1名の2名体制で、主任は教壇での講義と実演、補佐員は受講生の間を巡回して実習の補助や機器不調時の処理等を担当する。

訓練コースは一部(昼間コース)午前8時50分～午後2時40分、二部(夜間コース)は午後3時から午後8時40分までの2種類のコースがあり、3ヵ月ごとに一部と二部とを切り替えて運用している。

2. 問題点

年齢層が20歳代から60歳代までに分散しているこ

*現 福山職業能力開発短期大学校



図1 授業風景

と。若い年代層には簡単な説明と練習とですぐに理解されるのであるが、少し年齢が上がってくると繰り返し説明し練習を重ねなければ次に進めない。したがって若い年代層に照準をあわせればその他はついていけなくて落後する。反対に年齢が高い層に講義の内容をあわせると若い年代層は飽きて授業とは関係ないことを始める。いずれにしてもクラスの統一をとって同一歩調での講義を続けることは困難であった。

3. 解決策の検討

(1) 月ごとに年齢層(または経験)を区切って募集する。

例えば5月生は40歳以下、6月生は40歳以上……というように順次募集する。この案を受講生にアンケートすると4、5月生のおよそ2割ほどが「時期がずれたら入所の機会は失われたと思う。」と答えた。したがってこの案は受講生の都合に添うという観点

から採用は見送った。

(2) 並列にクラス分けする。

1クラスを「かめさんコース」と「うさぎさんコース」に分割して主任講師と補佐員講師が分担して指導する。

しかしこの案は片方の講義の声が他方の学習を妨害するであろうから実施はできなかった。

(3) 特急で一通り実習し次に普通で再度実習する。

パソコン操作の上達度は必ずしも年齢によらない。そこで同じ内容の講義を二度実施することを前提に授業を展開する。すなわち最初は「うさぎさんコース」と称してできる限りの高速度でこれから1ヵ月かけて学習することの要点だけを取り出して実習する。その後再度「かめさんコース」と称して通常速度での授業を行うものである。この案の利点は、

- ① 「うさぎさんコース」で理解できればそれを基礎にしてさらに高度な知識を自力で涵養できる道を開くことができる。
- ② 途中で落ちこぼれたと感じても次回の講義があるという安心感がある。
- ③ 部分的な記憶が残るだけでも次回の学習の機会に有利である。
- ④ 同一内容の講義を形を変えて複数回受講できることは知識の定着に有利である。

この案の欠点はもちろん講師や補佐員の負担が重くなるということである。

この報告はこの3案を試行したものである。

4. 実施状況

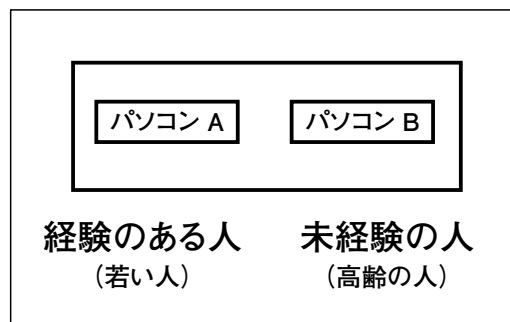
「うさぎさんコース」のテキストは自作のものでありエクセル以外の部分を網羅して5日間で完了させた。授業中に特に留意したのは5分おきに約10分間の休憩時間を欠かさないという点であった。

以下、能率のよい教室運営と効果的な授業展開のために試みたさまざまな工夫の実際を報告する。

(1) 教室運営の工夫 その1 (席の配置)

使用した教室は1つの机に2台のパソコンを設置して2人が着席できるようになっている。入所の日アンケートをとってパソコンに対する経験や自信

を調査し、経験のある人や若い人と、未経験で自信のない人や高齢の人とを組み合わせる席を設定した。こうすることにより理解の早い受講生が隣の席の理解の浅い人に手助けができる環境を構築して補佐員の負担の軽減を図った。



(2) 教室運営の工夫 その2 (掃除当番)

終業20分前に4名ずつが当番で教室の机やパソコンの汚れなどの拭き取りや床の掃除に巡回することにした。その間、残りの受講生達は時間いっぱいまでパソコンに向かって作業をしてもいいことにした。(受講生達は1分でも長くパソコンをさわっていたいとの希望であった。)

(3) 授業展開における工夫。

この授業展開の特徴は以下の4点である。

① 目的を明確にしておいたこと

目的は「パンフレットを作成すること」であったが、その題材は各自で自由に設定することにした。

② 目的を達成させるために必要な最低限の知識のみを伝達したこと

まず最初に歌謡曲「四季の歌」の歌詞をワープロソフトで作成した。キーボード操作もままならないレベルであってもなんとか文書にしてプリントアウトさせた。拙くても自分の最初の作品であり自信を持つことができたものと思う。その間にキーボードやマウスの操作、ファイル、フォルダの作成や複写などの技術も身に付いたし以下の点にも気づいたはずである。

- ・キーボードさえ自由に打てればいいのだ!
 - ・パソコンは操作を間違えても爆発はしない!
- #### ③ よりよい目的達成のための欲求を喚起し続けた

こと

先輩達の作品を紹介した。町内会報、クラブの会員募集、料理のレシピ、花見の会、社内旅行、歓送迎会の案内など多彩なものが数多く出来上がっていた。

以下は講義開始から3日目に先輩達が作成したパンフレットの例（優秀作品）である。



(優秀作品の例)

左下の写真は自分のデジタルカメラ付き携帯電話で撮影した作者自身の写真である。受講生達は一様に驚きの声をあげたが「自分にもできるはずだ!」という意欲が喚起されて一層真剣味が増した。

続いて、やっと作成した「四季の歌」を土台にして『こうすればもっとカッコいい!』というように導入して1ステップずつ受講生の興味を刺激した。

以下にその導入の例を示す。

<1> 「写真付きのパンフレットのほうが見栄えがいい。」

(「写真の挿入」の技術を開示。)

<2> 「イラストを入れたい!」

(「ペイント」というソフトがあることの紹介とその操作方法の開示。)

<3> 「もっと多くの写真やイラストを簡単に入手する方法がありますよ!」

(インターネットの操作方法の開示。)

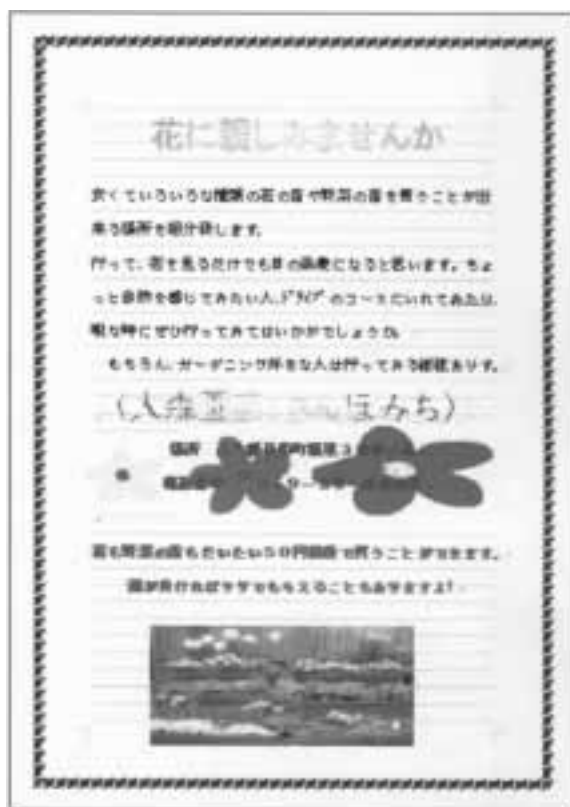
<4> 「自分で撮影した写真を使いたい!」

(デジタルカメラの操作とパソコンに取り込んだり加工する技術の開示。実習は後日に実施した。)

<5> 「電子メールが使えればお孫さん達の写真もあっという間に入手できますよ!」

(「これは『電子メール』を実習するときまでのお楽しみにしておきましょう……」というふう将来の授業に楽しみも残しておいた。)

以下は講義開始から3日目に受講生達が作成した平均的な作品の例である。



(作品の例)

このように、受講生達は自らの「知りたい!」という欲求を満たすために真剣に熱心に理解に努めた。その結果「パソコンを操作するために覚えねばならない幾多の苦勞」をさして経験せずにワープロやインターネットの基本的な操作を習得した。

(4) 繰り返し復習をしたこと。

授業の前に先日までに学習したことをもう一度実習できる時間をつくった。例えば2日目の授業の前には第1日目の課題「四季の歌」のファイルを作成、FDに記録、プリントアウトまでの操作を自力でさせた。この復習のための時間は日によっても異なるがおよそ30分から1時間程度であった。これは自宅にパソコンを持っていない人達には特に好評であった。

日程	1	2	3	4	5
内容	OSの基本的操作 「四季の歌」	ワープロ基本操作	インターネット操作	パンフレット作成	電子メール
(予定内容)	■	■	■	■	■
(復習範囲)	■	■	■	■	■

上記の日程表は授業内容の大まかな目標であり実は必ずしもこのとおりに進まなかった。当面の目標である「パンフレットの作成」が3日目になったり4日目になったりあるいは5日目になったクラスもあった。それは受講生達の進捗状況をみながら柔軟に対応したからである。また予定を早く消化したクラスには自由時間を与えて自由に復習させたり市販の参考書等によって自力でのスキルアップを促した。このころになるとキーボード操作がパソコン習得の鍵であることを実感した人達はインターネットで無償提供されているタイピング練習ソフトに熱心に取り組んでいた。

またこれに続く「かめさんコース」でさらに繰り返し同じ内容を学習したことも知識の定着に大きく寄与したものと考えている。

<進んだ学習>

この1ヵ月訓練コースは修了間近になると応用課題に取り組んだ。でもこれも早々と完成させる者も

いたので「おまけ」と称して「IBMホームページビルダー」でのホームページ作成の基礎を簡単に実習した。さらにデジタルカメラでお互いのスナップ写真や全員揃っての記念写真を撮影するなどしてパソコンに取り込みモノクロのプリンターであったがA4サイズに拡大プリントして全員に配布するなどの時間を持つことができた。



(授業中のスナップ写真)

5. 結果と考察

(1) 「うさぎさんコース」は予想以上の成果をもたらした。

受講生のおよそ80%以上はこの間にパソコン操作の必要最低限の技能を習得したと思われる。受講生に感想を尋ねると若い人達には好評であり、年輩者ではあえて不評を表明する人は少なかった。

また入所すぐからかなりの負荷がかかった学習であったことがその後の授業態度等を引き締めさせた効果をもたらしたとも考えられる。

(2) 「授業は楽しい」という返事が多かった。

「知識の獲得」 - 「試行」 - 「成功の快感」 - 「さらに上位の知識獲得要求」……と連続する好ましい循環が形成されていたからであろうと考えている。これはすべての年代層にわたっていた。

(3) 「席の配置」や「掃除当番」などによって教室の融和が促進されたものと考えられる。

受講生は月ごとに全員が入れ替わるのでその月ごとの雰囲気は異なっていたが、特に8月生達の雰囲気はとても楽しいものであった。自分の畑で栽培したスイカを大型クーラーバッグに入れて持ってきて

休憩時間にクラスみんなに振る舞ってくださったり、ナス、キュウリ、トマト、イチゴなどが別々の人達から何度か無償で提供されたりもした。さらには自宅の前の河で獲ったという天然アユまで持ってきてくれる人もいたし、記念写真のデジカメデータを自宅でクラスの数分をカラー印刷して無償で配布してくださった人もいた。修了間際になって教室の周囲の樹木が手入れをされていないことに気づいた中年の7～8人が剪定を申し出てくださり、自前



(8月生修了記念写真)

の道具を持ち込んで炎天下で奉仕して下さったりした。(この日は授業前に全員で教室の周囲の草取りや清掃をした。)

私はこの方達の今後の人生行路が豊かなものであってほしいと祈らずにはおれなかった。この教室は世間の荒波の中でいつしか忘れていたものを思い出したり傷ついた心をいやす場所となっていたことに思い至り胸にせまるものを感じた。パソコンの操作はついに身に付かなかったとしても明日からはまた元気に雄々しく社会に羽ばたいていけるであろうことにこの施設の存在意義を再認識させられた。

【謝辞】

「かめさんコース」を地道にみっちり指導して下さった補佐員講師の諸先生方のご尽力をはじめ、明るい教室運営を積極的に推進して下さった多くの訓練生の方々、また教室運営に当たり当施設管理職の特段のご配慮をいただいたことをこの場を借りてお礼申し上げます。